

校長室から 23 先輩方の生き方、働き方から学ぶ
～ 卒業生によるキャリアガイダンス ～

毎年3月に実施している「卒業生によるキャリアガイダンス」ですが、昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の臨時休業のため、実施することができませんでした。同窓会である「光陵会」のご協力を得て、毎年実施しているこの活動は、光陵高校を卒業した先輩方が、様々な分野で活動している様子や、高校時代を振り返って当時から今に至る軌跡をたどっていただくなど、生徒たちが自分の将来のキャリア形成をしていく上で、とても意味のあるものになっています。そのため、今年は何としても実施したいと、オンラインでの実施も視野に入れ、準備をしてきました。結果的に緊急事態宣言の再延長のため、全講座オンラインでの実施となりました。



1・2年の生徒たちは、全16講座の中から2講座を選んで受講します。株式会社 zozo 社長の澤田宏太郎氏(21期)の講演では、「自分の意志を通すこと、初めからあきらめていたら本当に何も起こらない、この勉強が将来役に立つか考えてはいけない、どんな人と一緒に働くかが大事」など、ご自身の体験談を交えながら語っていただきました。ウェブ広告代理店に勤務しながらプロカメラマンとしても活躍している池田理紗氏(42期)の講演では、「やりたいことをやればよい。仕事は変えられる」と、仕事との向き合い方、結婚生活との両立などについてもお話しいただきました。今回、上海で起業をしている金田修氏(25期)には、中国からご講演いただきましたが、光陵高校時代に身に付けた「すべてのことを疑おう。常識を疑おう。教科書から間違いを探せ」という考えが、今の自分を作っているというお話でした。

それぞれの会場で生徒からも活発に質問がだされ、生徒たちは多いに刺激を受けたようです。生徒たちの感想を紹介します。

- 将来、こう進まないといけないのかなというのを、そうでなくても良いと教えていただける場面が多くあり、自分がいかにかたよった視点で自分の人生を判断しているのを感じた。もし今まで考えていた人生のイメージで進んでいくにしても、もう少し別の視点から見つめてみることをしていこうと思った。
- 今まで将来の事を考えて不安になる事が多かったけれど、まずは勇気をもって新しい環境に飛び込んでみる事が大切なのだと感じた。
- 経験がすべて役に立つわけでないが、広く勉強すると、社会に出てふとした時に役に立つことがあると聞き、勉強の本質をとらえていて参考になった。
- 常識を疑うことは難しいし、やはり常識に流されてしまうことが多いけれど、今から自分の意志や意見をしっかり持つようにしようと思った。
- 結果がどうあれ、自分で決めたことに責任を持つことの楽しさを学んだ。

- 仕事はずっと同じ企業に勤め続けて自由がないイメージだったから、自分で仕事を始めたり、転職したりするなど自由度が高いことを知って驚いた。そのためには、資格など必要なスキルを身に付ける大学での勉強が大切だと思った。
- 専門職の大学に行くことで就職や人生の幅が狭まってしまうのではないかと思ったが、逆に資格があることで選択の幅が広がるとわかり良かった。
- 仕事は縛られているもののイメージだったが、自由にできるものなのだと気持ちが楽になった。副業については考えたことがなかったので参考になった。
- 大学院に行くことは、就職の選択肢を広げることにつながると思った。
- 自分の学びたいことを学び、違うなと思えばまた他のことを学ぶということもできることがわかった。今やりたいことがみつからなくてもあせらず、いろいろなことを学んだり様々な人達と仕事をしたりすることで人とのつながりが広がっていく。友人関係は大切にしようと思う。
- 人のために働く、生まれ育った地域に貢献したいと考えた時、公務員がいいな、縁の下の力持ちのようでかっこいいなと思った。